

平成14年9月27日

各 位

上場会社名 株式会社 名 村 造 船 所  
 コード番号 7014  
 本社所在地 大阪市西区立売堀三丁目1番1号  
 問合せ先 責任者役職名 専務取締役経營業務本部長  
 氏 名 武 田 節 彌  
 T E L (06) 6543 - 3561

業績予想の修正について

平成15年3月期（平成14年4月1日～平成15年3月31日）の業績予想につきまして平成14年5月23日決算発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。

1. 連結業績予想の修正について

(1) 平成14年9月中間期（平成14年4月1日～平成14年9月30日）

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	35,000	100	20
今回修正予想 (B)	百万円	32,000	800	500
増減額 (B) - (A)	百万円	3,000	900	520
増 減 率	%	8.6	-	-
ご参考：前中間期実績	百万円	32,426	292	138

(2) 平成15年3月期通期（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	72,000	3,700	2,200
今回修正予想 (B)	百万円	67,000	1,700	1,000
増減額 (B) - (A)	百万円	5,000	2,000	1,200
増 減 率	%	6.9	54.1	54.5
ご参考：前期実績	百万円	60,739	848	243

2. 単体業績予想の修正について

(1) 平成14年9月中間期（平成14年4月1日～平成14年9月30日）

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	28,500	60	10
今回修正予想 (B)	百万円	26,000	800	500
増減額 (B) - (A)	百万円	2,500	860	510
増 減 率	%	8.8	-	-
ご参考：前中間期実績	百万円	26,221	422	32

(2) 平成15年3月期通期（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

	単 位	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表 (A)	百万円	60,000	3,600	2,100
今回修正予想 (B)	百万円	57,000	1,600	1,000
増減額 (B) - (A)	百万円	3,000	2,000	1,100
増 減 率	%	5.0	55.6	52.4
ご参考：前期実績	百万円	48,935	564	1,529

### 3. 上記修正の主な理由は以下のとおりであります。

中間期および通期連結業績予想の下方修正の主たる原因は、連結財務諸表提出会社(当社)の業績予想の修正であります。

売上高におきましては、当社は、通期予想為替レートを期初に1米ドル当たり125円に設定いたしましたが、上期の平均実績入金レートが120円強となり、同時に下期の予想レートを120円として見直した結果、通期で9億円程度の減収が見込まれること、また、中小造船所へ発注しておりました32千トン型バルクキャリアー1隻が契約解除となったことで19億円等の要因により、単体で計30億円の減収となり、加えて国内景気低迷の影響を受けた100%子会社の売上計画の見直しにより、連結売上高で50億円の減収となりました。

損益面におきましては、円高による減収と海外子会社の為替差損に加えて、前期から今上期にかけて12隻を建造いたしましたギリシャ船主の高品質要求や厳しい検査によるコスト増が発生し、契約納期の厳守を最優先したことによる工程混乱が後続船にも波及するなど、後遺症が予想以上に長引いたことにより、通期経常利益で計20億円の減益予想となりました。

品質管理体制の強化などの一連の対策が功を奏し、混乱は収束に向かっておりますが、後遺症の影響は来期前半まで残る見込みであります。

当期が期初予想値より大幅な減収・減益予想となりましたこと、誠に申し訳なく存じますが、これらの苦い経験を通じて得た教訓と対策は、当社ならびに当社グループが、今後の厳しい国際競争に勝ち抜き、更なる発展のための貴重な財産になるものと確信しておりますので、ご理解のほどをお願い申し上げます。

なお、本修正公表時における未ヘッジ外貨は108百万米ドルであります。

以上の結果により、平成15年3月期の中間期および通期の連結・単体業績予想修正を行うものです。

### 4. 配当予想

当社の中間配当につきましては、公表どおり1株2円を予定しております。

以 上